

レジャーに関する支出

- 家計調査（二人以上の世帯）結果より -

7月になり、いよいよ夏本番となりました。夏休みに行楽に出かける方も多いのではないのでしょうか。

そこで今回は、レジャーに関する支出（以下、レジャー費）^(注)についてみてみましょう。

(注)ここでは、「一般外食」、「交通（定期代を除く）」、「ガソリン」、「宿泊料」、「パック旅行費」、「入場・観覧・ゲーム代」の合計を「レジャー費」としています。

レジャーへの支出割合は上昇傾向

レジャー費の支出金額と消費支出に占めるレジャー費の割合の推移をみると、1世帯当たり年間の支出金額は、平成9年の41万4千円をピークに15年まで減少傾向で推移していましたが、その後は増加傾向にあります。また、割合も平成16年以降上昇しており、20年は11.2%となっています（図1）。

夏休みとゴールデンウィークに増える支出

次に、1世帯当たりのレジャー費の月別支出金額をみると、8月が最も多く、レジャー費の1か月当たりの平均支出金額の約1.3倍となっています。続いて5月、7月の支出金額が多くなっており、夏休みやゴールデンウィークなどの時期にレジャーへの支出が多い傾向があることがわかります（図2）。

低下している8月の有料道路料の割合

最後に、8月の交通（定期代を除く）の構成比について、平成12年と20年を比較してみると、鉄道運賃、バス代及び「他の交通」は、平成12年に比べ20年は上昇しています。一方、タクシー代、航空運賃及び有料道路料は、平成12年に比べ20年は低下しており、特に有料道路料は、ETCの利用による割引の普及なども影響していると考えられます（図3）。

図1 レジャー費と消費支出に占めるレジャー費の割合の推移（昭和60年～平成20年）

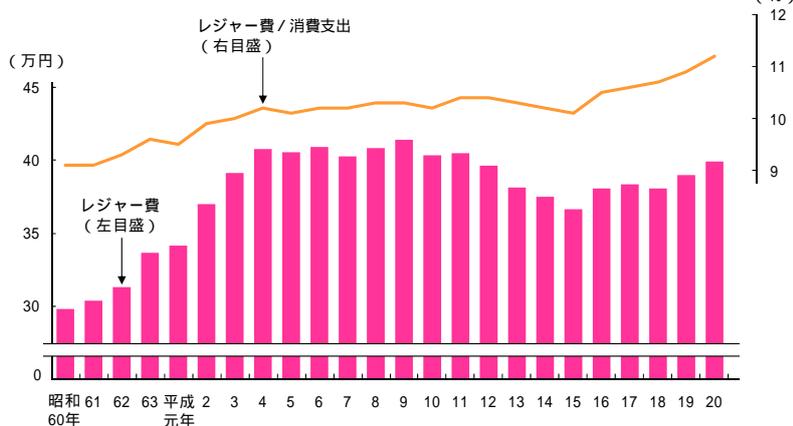


図2 レジャー費の月別支出金額（平成18～20年平均）

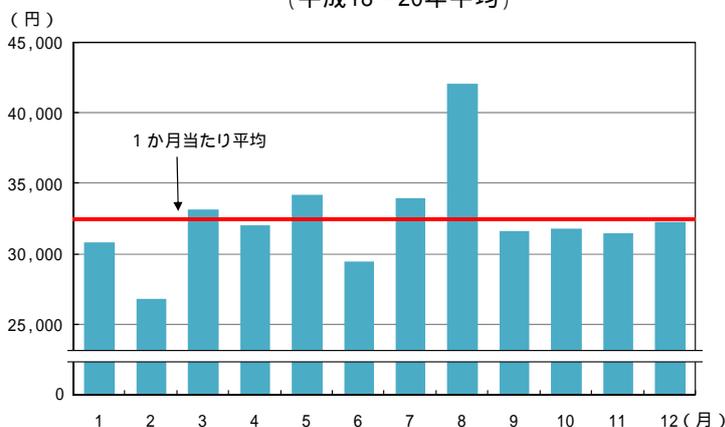


図3 8月の交通（定期代を除く）の構成比（平成12年・20年）

